

Ⅱ．事業項目別実施概況

1．都市農村交流事業

〔1-1 体験交流事業〕

(1) 援農ボランティア活動の拡充

過疎化・少子高齢化により担い手不足が深刻な農村地域を応援するため、主に都市生活者のボランティア（快汗！猫の手援農隊）を募り、「農作業の支援」や「農家と都市生活者の交流」によって、農業・農村の理解促進や活性化に資する活動に取り組んだ。

実施：全国 21 箇所 28 企画 [参加者総数 453 名]

【詳細】

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	高岡チューリップ花摘み隊	4/19(水)～4/21(金)	富山県高岡市	12
2	農大コラボ機能性雑穀援農 播種	5/26(金)～5/28(日)	長野県長和町	5
3	りんご摘果隊	6/ 2(金)～6/ 4(日) 6/10(土)～6/11(日)	長野県中野市	29
4	さくらんぼ援農隊(山梨県)	6/ 9(金)～6/11(日)	山梨県南アルプス市	12
5	にんにく収穫隊	6/ 9(金)～6/10(土) 6/10(土)～6/11(日) 6/ 9(金)～6/11(日)	新潟県長岡市	21
6	秦野カーネーション片付け隊	6/10(土)	神奈川県秦野市	39
7	さくらんぼ援農隊(山形県)	6/20(火)～6/23(金)	山形県東根市	6
8	ときわにんにく収穫隊	7/ 3(月)～7/ 5(水)	青森県藤崎町	8
9	にんにく出荷調整隊	7/15(土)～7/16(日)	新潟県長岡市	10
10	菌床しいたけ援農隊	7/20(木)～7/21(金)	栃木県さくら市	9
11	大井町みかん摘果隊	7/29(土)	神奈川県大井町	17
12	さるなし収穫隊	9/24(日)～9/26(火)	長野県小谷村	7

13	津軽りんご収穫隊	9/27(水)～9/29(金)	青森県黒石市	11
14	りんご葉摘み隊	10/6(金)～10/8(日)	長野県中野市	14
15	にんにく植付隊	10/13(金)～10/14(土) 10/14(土)～10/15(日) 10/13(金)～10/15(日)	新潟県長岡市	16
16	農大コラボ機能性雑穀援農 収穫	10/13(金)～10/15(日)	長野県長和町	7
17	京丹波黒大豆収穫・仕分隊	10/14(土)	京都府京丹波町	24
18	市田柿援農隊	10/31(火)～11/2(木)	長野県高森町	10
19	あんぼ柿援農隊	11/10(金)～11/12(日)	山梨県南アルプス市	12
20	滋賀日野菜収穫・仕分隊	11/10(金)～11/11(日)	滋賀県日野町	5
21	りんご収穫隊	11/24(金)～11/26(日) 11/27(月)～11/29(水)	長野県中野市	45
22	西宇和みかん収穫隊	11/28(火)～11/30(木)	愛媛県伊方町	12
23	三ヶ日みかん収穫隊	12/1(金)～12/ 3(日) 12/1(金)～12/ 5(火)	静岡県浜松市	12
24	多賀にんじん収穫・仕分隊	12/1(金)～12/ 2(土)	滋賀県多賀町	11
25	鴨川市温州みかん収穫隊	12/8(金)	千葉県鴨川市	34
26	大井町温州みかん収穫隊	12/9(土)	神奈川県大井町	36
27	壱岐島で牡蠣の殻洗い隊	12/20(水)～12/22(金)	長崎県壱岐市	8
28	紀の川八朔収穫隊	12/24(日)	和歌山県紀の川市	21

(2) 食と農の理解を深める食育交流企画の実施

日本の農村と安全で質の高い農業を守るため、また伝統的な食文化を都市生活者へつなぐことを目的とした交流企画を拡充し、子供から大人までの幅広い世代に対して「食と農」の理解促進を図るために「田舎でいいね！食育探訪」を実施した。

食のプロを育てる総合教育機関「大阪あべの 辻調理師専門学校」と連携し、食を生み出す「農」の魅力を伝える機会として、在校生の校外学習（産地見学）8クラス177名を対象に実施した。また

東洋女子高等学校の校外学習を受注し、104名が参加し、農業体験、農泊を実施した。

実施：全国14箇所 14企画 [参加者総数名] 546名

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	大田原市で農業体験と農泊 (東洋女子高等学校)	4/27(木)～ 4/28(金)	栃木県大田原市	104
2	里山の棚田でお米作りスクール 田植え	4/29(土)	千葉県鴨川市	17
3	足柄茶摘みと食育	5/14(日)	神奈川県相模原市	24
4	完熟ブルーベリー生食	7/1(土)	福井県越前市	10
5	なにわの伝統 毛馬胡瓜の収穫	7/15(土)	大阪府河南町	15
6	夏の京都野菜収穫	7/30(日)	京都府綾部市	12
7	里山の棚田でお米作りスクール 稲刈り	8/26(土)	千葉県鴨川市	25
8	食と農の体験企画と産地見学 (大阪あべの辻調理師専門学校)	11/6(月) 11/7(火)	京都府綾部市 京都府笠置町 和歌山県紀の川市	177
9	野菜収穫体験とおやき作り	11/12(日) 3/21(水)	東京都あきる野市	34
10	農と食を学ぶセミナー	11/22(水) 2/7(水) 3/16(金)	東京都内 セミナー会場	38
11	三島野菜食育	12/2(土)	静岡県三島市	18
12	江戸東京野菜を学ぶ(50周年企画)	12/10(日)	東京都練馬区	20
13	なにわの伝統野菜 勝間南瓜 (50周年企画)	12/22(金)	大阪府勝間村	18
14	醤油絞りと豆腐作り体験 (50周年企画)	1/27(土)	埼玉県神川町	34

大阪のふるさと回帰支援「いなか暮らしフェア」(7/29)にて、「食べるって、めっちゃ大事！とうみょうで食育を学ぼう！教室」を開催し、親子連れのご家族の皆様、食育に興味をお持ちの来場者

の皆様など多くの方々が本会ブース（天満橋会場）へ訪れて実施しました。（1回30分×6回開催）

(3) 移住・就農喚起に向けた田舎暮らし体験の拡大

日本の農山漁村の伝統文化や郷土芸能、産業の中にある交流資源を活用した「里山暮らし・島暮らし企画」を拡充し、農山漁村地域に暮らす人々との交流により田舎暮らしへの興味・関心を訴求し、移住・就農喚起に向けた滞在型企画を実施した。

また、ホスピタリティツーリズム専門学校大阪の旅行科では、地域活性演習として地域振興に貢献できる企画を考える授業の支援を行い、「鳥取の田舎暮らしの企画」を実施した。

実施：全国10箇所 10企画 [参加者総数158名]

【詳細】

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	鳥取の田舎暮らし	7/27(木)～7/29(土)	鳥取県鳥取市	36
2	鳥取若桜町の田舎暮らし	8/19(土)～8/20(日)	鳥取県若桜町	14
3	北海道の漁師町暮らし	9/13(水)～9/16(土)	北海道増毛町	10
4	野菜収穫と農家民泊	10/20(金)～10/22(日)	福井県越前市 京都府綾部市	36
5	椎葉村の田舎暮らし (50周年企画)	12/9(土)～12/10(日)	宮崎県椎葉村	10
6	大田原でお正月準備体験 (50周年企画)	12/17(日)	栃木県大田原市	11
7	答志島・菅島の田舎暮らし	1/19(金)～1/21(日)	三重県鳥羽市	6
8	鳥取若桜町の田舎暮らし	2/3(土)～2/4(日)	鳥取県若桜町	10
9	冬の蔵王 雪の森遊び (50周年企画)	2/10(土)～2/11(日)	宮城県蔵王町	12

10	小滝地区の田舎暮らし	3/ 3(土)～3/ 4(日)	新潟県糸魚川市	13
----	------------	-----------------	---------	----

(4) 農業・農村ファン創りに向けた体験型交流企画の実施

上記(1)～(3)への発展途上の企画として、気軽にグリーン・ツーリズムが楽しめる「ふるさと体験交流」を実施した結果、49企画、1,465名が参加した。

【詳細】

企画名	ふるさと倶楽部通信	企画数	人数
「ふるさと体験交流」	春号(4月～5月下旬)	6	235
	初夏号(5月下旬～8月下旬)	16	532
	夏秋号(9月上旬～11月上旬)	15	394
	秋冬号(11月中旬～3月上旬)	9	245
	春号(3月)	3	59

(5) 地域交流支援事業の実施後におけるJA交流事業との連携

地域支援事業による地域資源の掘り起し、プログラムづくり、安全管理等の受け入れ態勢の整備を2年間行い、その後も本会は、継続的な情報やノウハウの提供により、交流人口の拡大に向けた集客支援や広報活動に取り組んでいる。本年度は下記企画を実施し、233名を受け入れた。

実施：全国3箇所 5企画 [参加者総数233名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	旬の野菜収穫・とうもろこし生食	7/ 8(土)	JA紀の里	31
2	あら川の桃・夏野菜収穫体験	7/23(日)	JA紀の里	44

3	和歌山ブランド 紀の川柿収穫体験	10/29(日)	JA紀の里	31
4	邑美人収穫とソーセージ作り体験	1/20(土)	JA邑楽館林	16
5	いちご・なばな収穫と海苔すき体験	3/ 3(土) 3/26(月)	JAきみつ	111

(6) 50周年特別企画の取り組み

創立50周年を迎え、次の50年に向けて公益事業の拡大を図るため、新たに職員よりアイデアを募り、企画コンテストを実施した。結果、農と食を理解・応援でき新たなファンづくりをするべく50周年特別企画を6企画実施した。

[1-2 地域交流支援事業]

(1) 地域交流企画の提案と地域での展開

農林水産省の交付金を活用した支援事業では、昨年度から継続している3地域に加え、本年度は「農山漁村振興交付金等の交付金や補助金」を活用した4地域が新たに採択を受けたことにより、合計7地域のJAや地域となった。これらに対し、地域資源の掘り起こしと活用、受入体制の整備、および人材育成研修等を通じ、交流人口の増大による地域活性化に向けた活動を支援した。

① 千葉県君津市・JAきみつ

(直売所を拠点とした都市農村交流)

昨年度から継続して、子ども農山漁村交流、農山漁村の地域資源と福祉を活用した「農」の取組支援、農観連携プロジェクトで外国人受入体制整備による地域の活性化に向けた2年目の活動を支援した。

実施組織：君津市農業農村活性化協議会

② 長野県安曇野市・J Aあづみ

(直売所を拠点とした都市農村交流)

昨年度から継続して、一昨年に開設したJ A大型農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」を拠点とした交流事業の拡大を目的として、都市住民の受入体制整備による地域の活性化に向けた2年目の活動を支援した。

実施組織：あづみ農業を元気にする活性化プロジェクト

③ 石川県加賀市

(子ども農山漁村交流)

昨年度から継続して、伝統・歴史・文化・農山漁村など地域資源を活かした教育旅行の受入れ体制づくりを目指し、教育旅行受入れパンフレットの制作や安全管理体制など、事務局体制整備の支援を行った。

実施組織：南加賀地域子ども体験推進協議会

④ 岩手県花巻市・J Aいわて花巻

(新たな需要へ対応できる受入れ体制の整備)

今年度から新たに「農泊」を採択され、その人材活用事業を利用して、「協議会組織の体制整備」「地域内連携の確立」に向けた実践活動(分科会等をはじめとする会議体の開催、資源調査、人材育成研修、モニターツアーの実施等)を運営する事務局の支援を行なった。

実施組織：花巻農業協同組合

⑤ 長野県松本市

(地域資源を活用した教育旅行の受入体制整備)

今年度から新たに「農泊」を採択され、地域資源の調査と洗い出し、体験プログラムの造成研修、次年度に実施するモニターツアーを効果的にするための事前活動を支援した。

実施組織：信州・松本奈川グリーンツーリズム推進協議会

⑥ 和歌山県紀の川市・J A紀の里

(地域資源を活用したプログラムの拡充と滞在型観光ビジネスの確立)

今年度新たに創設された「農泊」の採択を受け、その人材活用事業を利用して、同地区にある観光コンテンツ（農業体験・加工体験・食事・アクティビティ）の拡充と宿泊施設との連携による農泊ビジネスの確立、交通アクセスの整備と様々業種との連携業務を支援した。

実施組織：紀の里農業協同組合

⑦－１ 島根県浜田市

(地域資源を活用した教育旅行プログラム造成研修)

公益財団法人ふるさと島根定住財団の交付金を活用し、学校・旅行会社による産学連携の取組みを通じ、旅行会社等の送り手側を意識した地域資源の「洗い出し」と「見える化」を図り、この地域にしかない教育旅行プログラム造成研修を実施した。また、安全管理研修・小学校の教員を目指す学生らによるモニターツアーの実施を支援した。

実施組織：浜田市ツーリズム協議会

⑦－２ 島根県 松江市・浜田市

(実践インバウンドセミナーの開催)

公益財団法人ふるさと島根定住財団の交付金を活用し、田舎ツーリズムで外国人「おもてなし」をテーマに、基礎知識からワークショップで、受入れプログラム作りとその実践を行った。研修では基礎知識とすべく、全国の農泊によるインバウンド受入、長期滞在向け観光コンテンツの事例紹介、外国人受入に伴うポイントについて講演を行った。

実施組織：しまね田舎ツーリズム推進協議会

⑧ その他の「農泊」の地域支援の取組

(人材活用、研修等の実施)

今年度、新たに創設された「農泊」の採択を受けた地域に対する（株）農協観光の支援に連携し、プログラム開発や安全管理の研修や、人材活用事業等により、JA・地域を支援した。

実施組織：十勝域内（農・泊）観光連携協議会、一般財団法人
丘のまちびえい活性化協会、人吉球磨グリーン・ツ

ーリズム推進協議会、佐野農業協同組合、あさひな農業協同組合

(2) 農泊における全国推進

本年度は、農林水産省が提唱する「農泊（日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ農山漁村滞在型旅行）」については、同省の交付金等を活用し、農泊の全国推進の一助となる活動を行なった。

① 農泊シンポジウムの開催

農山漁村地域における農泊の取組みの促進と機運の醸成、更には農泊に取り組む地域と事業者とのビジネス機会の創出を目的に農泊シンポジウムを開催した。

名 称	実施日	開催都市	参加者数
農泊シンポジウム (参加者数 1,232 名)	7月21日(金)	東京都品川区	172名
	8月9日(水)	沖縄県名護市	92名
	8月29日(火)	岡山県真庭市	149名
	8月31日(木)	北海道札幌市	164名
	9月5日(火)	熊本県熊本市	174名
	9月12日(火)	宮城県仙台市	148名
	9月13日(水)	石川県金沢市	70名
	9月15日(金)	大阪府大阪市	138名
9月21日(木)	愛知県名古屋市	125名	

農泊シンポジム 2.0 (参加者数 677 名)	2月9日(金)	宮城県仙台市	150名
	2月15日(木)	福岡県福岡市	90名
	2月20日(火)	大阪府大阪市	114名
	2月21日(水)	東京都千代田区	194名
	3月8日(木)	北海道札幌市	129名

② 農泊ファムトリップの実施

旅行会社や広報団体等が多様な農泊地域を体験し、農泊地域の魅力を磨き上げるための課題や必要な取組について農泊地域と議論することを目的に、全国3地域で実施した。

実施日	実施場所	受入協議会	参加者数
2月27日(火) ～28日(水)	長野県飯山市	(一社) 信州いいやま観光局	9名
3月6日(火) ～7日(水)	熊本県人吉市	人吉球磨 グリーン・ツーリズム推進協議会	11名
3月8日(木) ～9日(金)	岩手県遠野市	NPO法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	15名

③ イベントへの出展

農泊に興味のある地域や農泊取組地域、これらの地域と連携しうる事業者に対して、農泊の意味や取組み意義について説明し、理解を深めてもらうことを目的に(株)農協観光と(株)百戦錬磨と連携し、自主事業にてブースを出展した。

イベント名	実施日	出展場所	ブース来訪者数 (名刺交換者数)
インバウンドマーケット EXPO 2018	2月21日(水) ～23日(金)	東京ビックサイト (東京都江東区)	121名
第1回地方創生 EXPO	2月21日(水) ～23日(金)	幕張メッセ (千葉県千葉市)	227名

④ PR動画の作成

国内外問わず、農泊を幅広く知ってもらい農泊地域への送客を促すとともに、農泊取組地域を掘り起こすことを目的に、農泊ファムトリップを実施した長野県飯山市、熊本県人吉市を題材とした農泊のPR動画を作成した。

2. 教育研修事業

(1) 観光振興のための資格取得研修の実施

観光振興ならびに地域住民の余暇・観光レクリエーションのニーズに応える態勢づくりに資するため、旅行業に係る各種研修会を全国的に開催した。具体的には登録旅行業者従業員を対象に法定研修を行い、また登録旅行業者従業員や旅行業界をめざす者を対象に国家資格取得を目的とした研修を行い、能力向上と資格取得の拡大支援に努めた。

(2) 「旅程管理研修」(法定研修)の開催

研修名	開催会場数	開催都市	受講者数
総合旅程管理研修	39	仙台(3回)・宇都宮・東京(10回)・鴨川・長野・松本・水戸・新潟(2回)・長岡・浜松・名古屋(2回)・金沢・富山・福井・大阪・岡山・広島(2回)・徳島・高松・松山・福岡(3回)・熊本・鹿児島	276
国内旅程管理研修	46	盛岡・仙台(3回)・福島・郡山・宇都宮・前橋・東京(11回)・長野・松本・水戸(2回)・新潟(2回)・佐渡・長岡・金沢・富山・浜松・名古屋(2回)・福井・大阪(2回)・岡山(2回)・広島(2回)・徳島・高松・松山・福岡(2回)・熊本・鹿児島	332

(3) 「総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」の開催

講座名	開催会場数	開催都市	受講者数
総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座	11	東京(8回)・名古屋(3回)	95

(4) 「国内旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」の開催

講座名	開催会場数	開催都市	受講者数
国内旅行業務取扱 管理者国家試験対 策講座	1 2	仙台（2回）・東京（5回）・名古屋（2 回）・紀の川市・高松・福岡	1 1 1

3. 広報・調査研究事業

(1) 機関紙、広報誌およびインターネットの活用による広報活動の充実

- ① 本会事業内容への理解促進を図るため、発刊から4年目を迎えた機関紙「つなぐ」を年4回（各2,000部）発行し、会員及びJAの役職員をはじめ関係組織を対象に、具体的な事例や利用者アンケート結果を掲載しながら各事業の取組みを紹介した。
- ② 都市部を中心とした会員組織「ふるさと倶楽部」を対象として、広報誌「ふれあい」を年6回（各10,000部）発行し、就農者にスポットをあてた特集“農がつなぐ人の輪”、農山漁村地域の自然、生活・文化、伝統手工芸品・民俗芸能および都市農村交流に係る活動等の情報発信を行った。
- ③ ホームページについては、農業ボランティアならびに都市農村交流企画等の募集案内や活動報告、観光人材育成を目的とした研修企画等に関する情報を随時掲載し、広報活動の充実を図った。
- ④ 農山漁村のファンづくり、ふるさと倶楽部会員の加入促進を図るため、交流サイト（フェイスブック）を活用し、若年層から高齢層までの不特定多数を対象とした情報発信を積極的に行った。

(2) 農山漁村における民俗文化資源の保存・普及支援の実施

農山・漁村地域の民俗芸能の保存・普及支援を図るため、農村地

域の生活・文化と民俗芸能との深い係わりを知り、地域で伝承されてきた民俗芸能を都市住民に紹介する「第29回民俗芸能と農村生活を考える会」を東京にて開催した。

演 目：「上町法印神楽」（宮城県登米市）

開催日時：平成30年2月17日（土）13時開演

会 場：東京都千代田区神保町 日本教育会館『一ツ橋ホール』

来場者数：401名

後援団体：農林水産省、文化庁、観光庁、宮城県登米市、（一社）登米市観光物産協会、登米市郷土芸能協会、JA全中、JA宮城県中央会、JAみやぎ登米、（株）農協観光、（一財）地域伝統芸能活用センター、（公社）全日本郷土芸能協会、全国民俗芸能保存振興市町村連盟など

（3）農業農村の理解促進ならびに農観連携に向けた調査研究の実施

農業・農村の理解促進と都市農村交流や観光促進等による地域活性化に関する調査研究事業を行った。特に、農観連携による地方創生を目指した課題である「農山漁村で過ごすグリーン・ツーリズムと他の観光の組み合わせによる新たな観光需要の掘り起こし」ならびに「外国人旅行者を農山漁村へ誘致するための受入環境整備やプロモーション」等を調査研究テーマとして取り纏め、「成熟社会における新たなグリーン・ツーリズムの提案」（冊子）を発行した。

（4）創立50周年記念誌「50年のあゆみ」の発刊

創立50年の節目の年を迎え、記念事業として50周年記念誌「50年のあゆみ」を発刊し、入会会員ならびにJA関係団体等へ配布した。

4. 観光人材育成事業

(1) 観光客受入を促進する研修の実施

観光立国の推進や地方創生の動きを踏まえて、外国人観光客による観光需要の高まりと、国内旅行消費の拡大に併せて、旅館や観光施設に対し、外国人旅行者の受入と邦人旅行者の更なる受入に必要な基礎知識の習得やおもてなしサービスの品質向上のための各種研修会・講座を開催した。

①「税務調査の概要とその対応研修」の開催

税務調査とはどんなものなのか、どういった時に調査が行われるのかを学び、日常の会社内経理処理に役立てることを目的とした研修を企画し開催した。

開催都市：群馬県利根郡みなかみ町（7月）

受講者数：56名

②「料理人から学ぶ 地産地消の推進とインバウンドの対応研修」の開催

食(地産地消)のこだわり・提供の仕方の実例の講演から、訪日外国人特有の食に関する注意点や予防策について学び、接客接遇の向上につなげることを目的とした研修を企画し開催した。

開催都市：長野（11月）

受講者数：64名

③「既存宿泊施設との連携から始まる農村漁村滞在旅行（農泊）について」

全国各地からの優良事例を紹介することにより、地域との類似性や特性・課題を見出し、新たな事業展開を図る手段を学ぶことを目的とした研修を企画し開催した。

開催都市：岡山（12月） 広島（12月）

受講者数：42名

④「社内インストラクター養成講座 顧客満足度向上研修」の開催

社内で社員教育指導をするため、短期間でも効果的な人材育成ができる技法を習得し、また、顧客満足度を向上するための「満足の仕組み」を正しく理解し、一層の販売促進となることを目的とした研修を企画し開催した。

開催都市：仙台（3月）

受講者数：54名

⑤「JATA研修会 講師支援」（講師派遣）の実施について

JATAが主催する総合旅行業務取扱管理者研修等への講師派遣を行った。

出講回数：23回

出講都市：東京、横浜、埼玉、名古屋、大阪、広島

(2) 受入地域の体制整備に係る研修の開発と実施

①「農山漁村地域の受入に係る人材育成研修」の実施

農山漁村地域の受入体制確立の基本となる安全・衛生管理について、「リスクマネジメント研修会」として基本編（1会場）、上級編（1会場）を企画開催した。

	開催日	開催場所	受講者数
第1回基本編	12月8日（金）	東京都新宿区	21
第1回上級編	1月25日（木） ～26日（金）	国立オリンピック記念青少年センター	19

②「農山漁村地域の受入体制の整備」に係る相談等の実施

農山漁村地域の受入体制整備の人材育成事業として、各行政・受入協議会からの依頼により、研修会を実施した。

講座名	実施日	開催地
リスクマネジメント研修会	第1回：11月9日（木） 第2回：11月10日（金） 第3回：11月28日（火）	新潟県佐渡市 新潟県阿賀町 新潟県十日町市
リスクマネジメント研修会	1月13日（土）	栃木県 那須烏山市
リスクマネジメント研修会	1月18日（木）	山形県最上町
受入協議会・保育士向け自然・農林体験活動実地研修会	8月18日（金）～20日（日） 8月25日（金）～27日（日） 9月26日（火）～28日（木）	長野県原村
プラン造成研修会	12月8日（金） 2月4日（日）	秋田県大仙市
	12月21日（木） 3月1日（木）	秋田県三種町
	1月31日（水） 3月16日（金）	秋田県八峰町

5. 日本農業検定事業

(1) 農業への理解促進と関心を高める日本農業検定の拡充

農業や食への理解促進と農業への関心を高めるため、農と食を中心テーマとした「日本農業検定」1級・2級・3級を実施した。

実施にあたっては、農林水産省はじめJAグループや教育関係団体等の後援を得て、普及活動を展開した。

また、受検拡大に向けた新しい営業先への取り組みとして、地方創生や農業をキーワードに、それらに関連した企業・団体、中学校や中高一貫校の園芸やガーデニングに関連するクラブ活動を行っている学校団体へもアプローチを行った結果、農業関連団体と学校数校が受検することとなった。また、J Aグループにおいては、都市部 J A 及び未実施 J A を中心に全国への普及活動を行った。

実施日	平成30年1月5日（金）～18日（木）
申込者数	3,339名
受検者数	3,184名（団体受検：2,727名、個人受検：457名）
団体受検	<p>① 学校関連：中学校6校・特別支援学校3校・高校3校・専門学校1校・大学1校（受験人員180名）</p> <p>② J A・Nツアーグループ：67団体（受検人員2,447名）</p> <p>③ 一般団体：7団体（受検人員100名）</p>
個人受検	<p>① 公開会場：東京・大阪会場（受検人員139名）</p> <p>② C B T会場：（受検人員318名）</p>

① 学校教育における活用

全国の中学校の技術・家庭科における栽培「生物育成」を中心として、学校教育現場における農業や食への理解促進とともに、授業効果の測定方策として、提案を実施すると共に補助教材「トウモロコシ栽培キット」17,500個を販売した。

② J Aグループ等における人材育成への貢献

J Aグループを中心として、団体や企業などの若年層職員を主な対象とした自己啓発や人材育成に貢献する取組みとして提案した。

③ 都市住民等への普及

広く国民に対して農業の理解促進を図り、農業への応援団・ファンをつくるため、ホームページや日本農業新聞等を通じて情報提供を行うと共に、個人受検を促進するよう全国約150箇所での受検会場を設営した。